

2022年3月期 決算短信〔日本基準〕（連結）

2022年5月12日

上場会社名 あすか製薬ホールディングス株式会社 上場取引所 東
 コード番号 4886 URL <https://www.aska-pharma-hd.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 山口 隆
 問合せ先責任者 (役職名) グループ経営企画部長 (氏名) 小林 秀昭 TEL 03-5484-8366
 定時株主総会開催予定日 2022年6月28日 配当支払開始予定日 2022年6月29日
 有価証券報告書提出予定日 2022年6月28日
 決算補足説明資料作成の有無：有
 決算説明会開催の有無：有（機関投資家・証券アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

1. 2022年3月期の連結業績（2021年4月1日～2022年3月31日）

（1）連結経営成績

（%表示は対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期	56,607	—	4,795	—	4,880	—	4,290	—
2021年3月期	—	—	—	—	—	—	—	—

（注）包括利益 2022年3月期 4,982百万円（—%） 2021年3月期 ー百万円（—%）

	1株当たり 当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	自己資本 当期純利益率	総資産 経常利益率	売上高 営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
2022年3月期	151.22	—	8.8	5.9	8.5
2021年3月期	—	—	—	—	—

（参考）持分法投資損益 2022年3月期 18百万円 2021年3月期 ー百万円

（注）当社は2021年4月1日に単独株式移転により設立されたため、前期実績はありません。

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2022年3月期	83,297	48,892	58.7	1,734.80
2021年3月期	—	—	—	—

（参考）自己資本 2022年3月期 48,892百万円 2021年3月期 ー百万円

（注）当社は2021年4月1日に単独株式移転により設立されたため、前期実績はありません。

（3）連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
2022年3月期	2,842	6,743	△2,996	17,103
2021年3月期	—	—	—	—

（注）当社は2021年4月1日に単独株式移転により設立されたため、前期実績はありません。

2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向 (連結)	純資産配当率 (連結)
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
2021年3月期	—	—	—	—	—	—	—	—
2022年3月期	—	7.00	—	8.00	15.00	425	5.3	0.5
2023年3月期（予想）	—	8.00	—	8.00	16.00	—	—	—

（注）1. 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：有

（注）2. 2022年3月期第2四半期末の配当原資は、その他資本剰余金であります。詳細は後述の「資本剰余金を配当原資とする配当金の内訳」をご覧ください。

（注）3. 当社は2021年4月1日に単独株式移転により設立されたため、前期実績はありません。

3. 2023年3月期の連結業績予想（2022年4月1日～2023年3月31日）

（%表示は、通期は対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	57,500	1.6	4,200	△12.4	4,300	△11.9	3,300	△23.1	116.32

※ 注記事項

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 ー社 （社名）ー、除外 ー社 （社名）ー

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
② ①以外の会計方針の変更：無
③ 会計上の見積りの変更：無
④ 修正再表示：無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2022年3月期	30,563,199株	2021年3月期	ー株
② 期末自己株式数	2022年3月期	2,379,856株	2021年3月期	ー株
③ 期中平均株式数	2022年3月期	28,370,218株	2021年3月期	ー株

(注) 当社は2021年4月1日に単独株式移転により設立されたため、前期実績はありません。

※ 決算短信は公認会計士又は監査法人の監査の対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

1. 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 経営成績等の概況（4）今後の見通し」をご覧ください。

2. 当社は、2022年5月19日に機関投資家及び証券アナリスト向けの決算説明会を開催する予定です。当日使用する資料につきましては、決算説明会開始までに当社ホームページに掲載する予定です。

3. 当社は2021年4月1日に単独株式移転により設立されました。なお、当連結会計年度が第1期となるため、前期実績はありません。

※ 資本剰余金を配当原資とする配当金の内訳

2022年3月期の配当のうち、資本剰余金を配当原資とする配当金の内訳は以下のとおりです。

基準日	第2四半期末
1株当たり配当金	7円00銭
配当総額	199百万円
純資産減少割合	0.005

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当期の経営成績の概況	2
(2) 当期の財政状態の概況	3
(3) 当期のキャッシュ・フローの概況	3
(4) 今後の見通し	3
(5) 利益配分に関する基本的方針および当期・次期の配当	4
2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方	5
3. 連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 連結貸借対照表	6
(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書	8
連結損益計算書	8
連結包括利益計算書	9
(3) 連結株主資本等変動計算書	10
(4) 連結キャッシュ・フロー計算書	11
(5) 連結財務諸表に関する注記事項	12
(継続企業の前提に関する注記)	12
(会計方針の変更)	12
(会計上の見積りの変更)	12
(セグメント情報等)	12
(1株当たり情報)	14
(重要な後発事象)	14
4. 補足情報	15
(1) あすか製薬株式会社の主力品の売上高	15
(2) 臨床開発の状況	16
(3) [連結] 設備投資、減価償却費、研究開発費	17

1. 経営成績等の概況

当社は、2021年4月1日に単独株式移転によりあすか製薬株式会社の完全親会社として設立されました。

(1) 当期の経営成績の概況

当連結累計期間における当社経営成績は以下のとおりであります。

単位：百万円

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益
2022年3月期	56,607	4,795	4,880	4,290
(ご参考) 2021年3月期	55,181	3,609	3,092	2,713

(ご参考) 2021年3月期実績はあすか製薬株式会社として公表した数値であります。

当連結会計年度の当社グループの売上高は566億7百万円となりました。費用面については売上原価が302億5千5百万円、販売費及び一般管理費は215億5千6百万円となり、その結果、営業利益は47億9千5百万円となりました。経常利益につきましては、営業外収益を3億7千9百万円、営業外費用を2億9千4百万円計上したことから48億8千万円となりました。また当社連結子会社であるあすか製薬株式会社が保有する土地および建物を譲渡したことによる固定資産売却益94億2千5百万円を計上したこと等により、特別利益として96億8千3百万円を計上いたしました。一方で、あすか製薬株式会社が申請したCDB-2914（ウリプリスタル）の開発中止により、無形固定資産の減損処理等による特別損失68億9千1百万円を計上したことに加え、投資有価証券評価損11億5千1百万円を計上したこと等により特別損失が84億円となりました。以上により、親会社株主に帰属する当期純利益は42億9千万円となりました。

セグメントごとの業績は次のとおりであります。

①医薬品事業

医療用医薬品事業につきましては、2021年4月に初めて実施された薬価の中間年改定や医療費抑制策の推進による影響を受けつつも、主力である産婦人科製品の伸長等により総じて堅調に推移しました。製品別にみると、産婦人科領域においてはGnRHアンタゴニスト「レルミナ」が73億3千4百万円、月経困難症治療剤「フリウエル」は34億6千3百万円と大幅な伸長となりました。また内科領域の主力品である甲状腺ホルモン剤「チラーゼン」が74億9千9百万円、難吸収性リファマイシン系抗菌薬「リフキシマ」が48億5千4百万円と増加したほか、他社製品供給問題に端を発する代替需要の高まりにより、オーソライズド・ジェネリック「カンデサルタン類」が123億9千4百万円、泌尿器科領域のLH-RH誘導体マイクロカプセル型徐放性製剤「リユープロレリン」が51億8千3百万円となりました。

以上の結果、売上高は507億9千1百万円、セグメント利益は50億8千8百万円となりました。

※主力品の売上高につきましては、4. 補足情報に記載しておりますのでご参照ください。

②その他

動物用医薬品、臨床検査、医療機器等の各事業を展開しているその他事業につきましては、動物用医薬品事業における畜産・コンパニオンアニマル用薬品、飼料添加物を中心に売上が好調に推移しました。

以上の結果、売上高は58億1千6百万円、セグメント利益は3億6千万円となりました。

③研究開発の状況

研究開発につきましては、あすか製薬株式会社が重点領域と位置付ける内科・産婦人科・泌尿器科領域を中心とした創薬研究および臨床開発を推進すると共に、導出入活動および事業提携戦略も積極的に展開しております。

2021年9月に東レ株式会社との間で、東レとナノシート株式会社が共同で開発中の癒着防止材「TRM-270C（東レ開発コード）」について、日本をテリトリーとした共同事業化契約を締結しました。

2021年9月に武田薬品工業株式会社が保有するrelugolix配合剤（開発コード：TAK-385）に関し、日本における子宮筋腫の独占的開発権および独占的販売権を取得するライセンス契約を締結しました。

子宮筋腫に関する適応症で2019年12月に製造販売承認を申請したCDB-2914（以下、ウリプリスタル）については、ウリプリスタル使用患者に重篤な肝障害が発生したことから、欧州では限定された適応症での承認維持となりました。そのため、本邦では新規に承認を取得することは困難と判断し、2021年9月に承認申請の取り下げを決定しました。

ラクオリア創薬株式会社との間で実施中の特定のイオンチャネルを標的とした創薬研究に関する共同研究につきまして、これまでに得られた成果を活用して新薬の創出に取り組む新たな共同研究契約を2021年11月に締結しました。

レルミナ錠40mg（レルゴリクス）については、「子宮筋腫に基づく諸症状（過多月経、下腹痛、腰痛、貧血）の改善」に加え、2021年12月に「子宮内膜症に基づく疼痛の改善」を効能効果として承認を取得しました。

前立腺肥大症の適応症で杏林製薬（株）と共同開発中のAKP-009（ルダテロン酢酸エステル）について、Phase II a試験の結果を踏まえ、最大効果を確保するために実施していた追加のPhase I 試験が終了しました。

避妊を効能効果として開発中のLF111（ドロスピレノン）は、Phase I / II 試験を終了し、Phase III 試験を開始しました。

以上から、2022年3月期の研究開発費は35億9千8百万円となりました。

（2）当期の財政状態の概況

（資産）

当連結会計年度末における総資産は、832億9千7百万円となりました。その主な内訳は、現金及び預金121億3百万円、売掛金144億8千2百万円、商品及び製品100億1千6百万円など流動資産が495億5千7百万円、有形固定資産109億3千6百万円、投資有価証券122億2千3百万円など固定資産が337億3千9百万円であります。

（負債）

当連結会計年度末における負債合計は、344億4百万円となりました。その主な内訳は、支払手形及び買掛金31億1千8百万円、電子記録債務37億2千3百万円、未払金48億6千7百万円など流動負債が160億1千1百万円、長期借入金123億2千3百万円、退職給付に係る負債57億3千万円など固定負債が183億9千3百万円であります。

（純資産）

当連結会計年度末における純資産合計は、488億9千2百万円となりました。その主な内訳は、利益剰余金458億3千3百万円など株主資本が454億1千9百万円、その他有価証券評価差額金32億3千1百万円などその他の包括利益累計額が34億7千3百万円であります。

その結果、自己資本比率は58.7%となっております。

（3）当期のキャッシュ・フローの概況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は、171億3百万円となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動におけるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果増加した資金は、28億4千2百万円となりました。これは主に、有形固定資産除売却益の計上はありましたが、税金等調整前当期純利益、減損損失および減価償却費の計上等によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果増加した資金は、67億4千3百万円となりました。これは主に、有形固定資産の売却によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果減少した資金は、29億9千6百万円となりました。これは主に、長期借入金の返済によるものであります。

（4）今後の見通し

今後の見通しにつきましては、薬価の毎年改定等の医療費抑制策の影響などにより、引き続き厳しい事業環境が続くと想定しております。また新型コロナウイルス感染症の収束時期を予測することは困難ではあるものの、ワクチン接種の浸透等、感染症対策が進み、経済社会活動も一定の正常化が進んでいくものと想定されます。このような環境下において当社グループではWith/Afterコロナに対する取り組みを進め、引き続きステークホルダーの皆様への安全に最大限の注意を払いつつ事業活動を進めてまいります。

2021年度からスタートした中期経営計画において、グループ全体で売上高700億円、営業利益率8%、ROE8%の目標数値を2025年度に実現することを掲げています。「（1）当期の経営成績の概況」に記載した通り、2021年度は

順調な滑り出しとなりましたが、引き続き目標実現に向けて当社グループ一丸となって取り組んでまいります。また当社グループにおいて2021年4月にESG委員会を立ち上げ、持続的な成長とともに社会課題の解決をなし遂げていくための17項目のマテリアリティを特定しました。今後は特定したマテリアリティへの取り組みを通じて、ESG、SDGs（持続可能な開発目標）の解決を推進することで、企業としての社会的責任を果たすと同時に持続可能な社会の構築に貢献してまいります。

2023年3月期の通期連結業績予想について

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株式に帰属する 当期純利益
2023年3月期（予想）	57,500	4,200	4,300	3,300
2022年3月期	56,607	4,795	4,880	4,290
増減額	892	△ 595	△ 580	△ 990
増減率（%）	1.6	△ 12.4	△ 11.9	△ 23.1

当社グループでの事業の主力となる医療用医薬品事業においては、毎年薬価改定の影響を受けるものの、レルミナ等の産婦人科領域製品の伸長が寄与し、連結売上高は575億円（当期比101.6%）を見込んでおります。利益面につきましては、研究開発費の増加に加え、事業活動の正常化に伴い費用が増加すると見込まれることから、営業利益42億円（当期比87.6%）、経常利益43億円（当期比88.1%）、親会社株主に帰属する当期純利益33億円（当期比76.9%）と想定しております。

（5）利益配分に関する基本的方針および当期・次期の配当

当社は、長期的な事業展開に備えた内部留保等を総合的に勘案しつつ、安定的な配当を継続することを基本方針としております。また内部留保につきましては、研究開発投資、生産設備投資など将来の持続的な成長に向けた企業体質の強化のために活用しております。一方で収益に応じた適正な利益還元を行うことも、経営の重要課題であると認識しております。

上記に基づき、直近の業績推移を踏まえ、当期の期末配当金につきましては1株につき1円増配し8円として、すで実施いたしました中間配当金7円と合わせて年間配当金は1株あたり15円とさせていただきます。また次期の利益還元につきましては、年間配当金として前年度を上回る16円（中間配当・期末配当 1株あたり各8円、連結配当性向 13.8%）を予定しております。

2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社グループは、連結財務諸表の期間比較可能性及び企業間の比較可能性を考慮し、当面は、日本基準で連結財務諸表を作成する方針であります。

なお、国際会計基準の適用につきましては、国内外の諸情勢を考慮の上、適切に対応していく方針であります。

3. 連結財務諸表及び主な注記

(1) 連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当連結会計年度 (2022年3月31日)
資産の部	
流動資産	
現金及び預金	12,103
売掛金	14,482
有価証券	5,000
商品及び製品	10,016
仕掛品	457
原材料及び貯蔵品	4,587
その他	2,911
貸倒引当金	△0
流動資産合計	49,557
固定資産	
有形固定資産	
建物及び構築物	9,872
減価償却累計額	△5,311
建物及び構築物（純額）	4,560
機械装置及び運搬具	17,478
減価償却累計額	△15,746
機械装置及び運搬具（純額）	1,732
土地	4,249
その他	3,581
減価償却累計額	△3,187
その他（純額）	393
有形固定資産合計	10,936
無形固定資産	
販売権	5,366
その他	816
無形固定資産合計	6,183
投資その他の資産	
投資有価証券	12,223
繰延税金資産	2,376
その他	2,037
貸倒引当金	△17
投資その他の資産合計	16,620
固定資産合計	33,739
資産合計	83,297

(単位：百万円)

当連結会計年度 (2022年3月31日)	
負債の部	
流動負債	
支払手形及び買掛金	3,118
電子記録債務	3,723
短期借入金	300
1年内返済予定の長期借入金	1,423
未払金	4,867
賞与引当金	1,160
役員賞与引当金	28
その他	1,389
流動負債合計	16,011
固定負債	
長期借入金	12,323
退職給付に係る負債	5,730
その他	338
固定負債合計	18,393
負債合計	34,404
純資産の部	
株主資本	
資本金	1,197
資本剰余金	1,867
利益剰余金	45,833
自己株式	△3,479
株主資本合計	45,419
その他の包括利益累計額	
その他有価証券評価差額金	3,231
為替換算調整勘定	164
退職給付に係る調整累計額	77
その他の包括利益累計額合計	3,473
純資産合計	48,892
負債純資産合計	83,297

(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書
(連結損益計算書)

(単位：百万円)

	当連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)
売上高	56,607
売上原価	30,255
売上総利益	26,351
販売費及び一般管理費	21,556
営業利益	4,795
営業外収益	
受取利息	0
受取配当金	258
その他	120
営業外収益合計	379
営業外費用	
支払利息	56
固定資産処分損	43
休止固定資産費用	155
その他	38
営業外費用合計	294
経常利益	4,880
特別利益	
固定資産売却益	9,425
その他	258
特別利益合計	9,683
特別損失	
減損損失	5,953
投資有価証券評価損	1,151
契約解除金	870
その他	425
特別損失合計	8,400
税金等調整前当期純利益	6,163
法人税、住民税及び事業税	983
法人税等調整額	890
法人税等合計	1,873
当期純利益	4,290
親会社株主に帰属する当期純利益	4,290

(連結包括利益計算書)

(単位：百万円)

	当連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)
当期純利益	4,290
その他の包括利益	
その他有価証券評価差額金	406
退職給付に係る調整額	121
持分法適用会社に対する持分相当額	164
その他の包括利益合計	692
包括利益	4,982
(内訳)	
親会社株主に係る包括利益	4,982

(3) 連結株主資本等変動計算書

当連結会計年度（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）

（単位：百万円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	1,197	928	41,790	△2,139	41,777
当期変動額					
株式移転による増減		1,165		△1,165	－
剰余金の配当		△199	△199		△398
親会社株主に帰属する当期純利益			4,290		4,290
自己株式の取得				△318	△318
自己株式の処分		△27		144	117
持分法の適用範囲の変動			△47		△47
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計	－	938	4,043	△1,339	3,642
当期末残高	1,197	1,867	45,833	△3,479	45,419

	その他の包括利益累計額				純資産合計
	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計	
当期首残高	2,824	△47	△44	2,733	44,510
当期変動額					
株式移転による増減					－
剰余金の配当					△398
親会社株主に帰属する当期純利益					4,290
自己株式の取得					△318
自己株式の処分					117
持分法の適用範囲の変動		47		47	0
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	406	164	121	692	692
当期変動額合計	406	211	121	739	4,381
当期末残高	3,231	164	77	3,473	48,892

(4) 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	当連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前当期純利益	6,163
減価償却費	2,885
減損損失	5,953
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	△566
環境対策費用引当金の増減額 (△は減少)	△820
受取利息及び受取配当金	△258
支払利息	56
持分法による投資損益 (△は益)	△18
有形固定資産除売却損益 (△は益)	△9,419
投資有価証券評価損益 (△は益)	1,151
契約解除金	870
売上債権の増減額 (△は増加)	△1,361
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△687
仕入債務の増減額 (△は減少)	412
その他	503
小計	4,863
利息及び配当金の受取額	292
利息の支払額	△58
法人税等の支払額	△1,385
契約解除金の支払額	△870
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,842
投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	△579
有形固定資産の売却による収入	10,312
無形固定資産の取得による支出	△1,798
投資有価証券の取得による支出	△56
投資有価証券の売却による収入	11
関係会社株式の取得による支出	△53
その他	△1,091
投資活動によるキャッシュ・フロー	6,743
財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△50
長期借入金の返済による支出	△2,298
自己株式の純増減額 (△は増加)	△248
配当金の支払額	△398
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,996
現金及び現金同等物に係る換算差額	△0
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	6,589
現金及び現金同等物の期首残高	10,514
現金及び現金同等物の期末残高	17,103

(5) 連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(会計上の見積りの変更)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社の構成単位のうち、分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、医療用医薬品等の製造・販売及び輸出入等を中心に事業を展開しており、「医薬品事業」を報告セグメントとしております。

「医薬品事業」は、主に医療用医薬品を製造・販売しております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、連結財務諸表を作成するために採用される会計方針に準拠した方法であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

セグメント間の内部利益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

当連結会計年度（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）

(単位：百万円)

	報告セグメント	その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	連結財務諸表 計上額 (注) 3
	医薬品事業				
売上高					
外部顧客への売上高	50,791	5,816	56,607	—	56,607
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	73	73	△73	—
計	50,791	5,890	56,681	△73	56,607
セグメント利益	5,088	360	5,449	△653	4,795
セグメント資産	42,910	3,048	45,959	37,338	83,297
その他の項目					
減価償却費	2,546	5	2,551	136	2,687

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、動物用医薬品、臨床検査

および医療機器等の事業を含んでおります。

2. 調整額の内容は以下のとおりであります。

- (1) セグメント利益の調整額△653百万円は、各事業セグメントに配分していない全社費用であり、主に持株会社である親会社に係る費用であります。
- (2) セグメント資産の調整額37,338百万円は、各事業セグメントに配分していない全社資産であり、主に事業セグメントに帰属しない当社の金融資産（現金及び預金、投資有価証券）及び管理部門に係る資産であります。
- (3) 減価償却費の調整額136百万円は、各事業セグメントに配分していない減価償却費であります。

3. セグメント利益は、連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。

【関連情報】

当連結会計年度（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報として、同様の情報が開示されているため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：百万円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
武田薬品工業(株)	49,439	医薬品事業

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

当連結会計年度（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）

	医薬品事業	その他	合計	全社・消去	連結損益計算書計上額
減損損失	5,941	11	5,953	—	5,953

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

	当連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)
1株当たり純資産額	1,734.80円
1株当たり当期純利益	151.22円

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	当連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)
親会社株主に帰属する当期純利益 (百万円)	4,290
普通株主に帰属しない金額 (百万円)	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益 (百万円)	4,290
期中平均株式数 (千株)	28,370

従業員持株会信託口が保有する当社株式を、「1株当たり純資産額」の算定上、期末発行済株式総数から控除する自己株式に含めております（当連結会計年度58千株）。

また、「1株当たり当期純利益」の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております（当連結会計年度88千株）。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

4. 補足情報

(1) あすか製薬株式会社の主力品の売上高

主 力 品 の 売 上 高
(2 0 2 2 年 3 月 期 実 績)

(単位:百万円)

品 目 名	前 期	当 期	対前年増減率 (%)	次 期
	2021年3月期	2022年3月期		2023年3月期
	年間実績	年間実績		年間見込
高血圧症治療剤 カンデサルタン※	12,329	12,394	0.5	10,840
甲状腺ホルモン剤 チラーヂン	7,209	7,499	4.0	7,714
子宮筋腫・内膜症治療剤 レルミナ	5,709	7,334	28.4	9,779
LH-RH誘導体 マイクロカプセル型徐放性製剤 リユープロレリン	4,502	5,183	15.1	4,589
難吸収性リファマイシン系抗菌薬 リフキシマ	4,334	4,854	12.0	5,289
月経困難症治療剤 フリウェル	2,952	3,463	17.3	3,083
抗甲状腺剤 メルカゾール	1,401	1,458	4.0	1,440
高血圧症治療剤 アムロジピン	1,294	1,073	△ 17.1	963
筋萎縮性側索硬化症用剤 リルゾール	1,083	938	△ 13.4	904
高脂血症治療剤 リビディル	1,096	919	△ 16.2	673

※ カンデサルタン配合剤を含む

(2) 臨床開発の状況

臨床開発状況

(2022年5月現在)

2022年5月12日

あすか製薬株式会社

区 分	(開発番号)	一 般 名	領 域・効 能	備 考
PhaseⅢ	(LF111)	ドロスピレノン	避妊	Insud Pharma(スペイン)より導入
PhaseⅡ/Ⅲ	(L-105)	リファキシミン	肝性脳症 (小児適応)	Alfasigma S.p.A.(イタリア)より導入
PhaseⅡ ※1	(AKP-009)	ルダテロン酢酸エステル	前立腺肥大症	杏林製薬(株)との共同開発
PhaseⅠ	(L-105)	リファキシミン	クローン病	Alfasigma S.p.A.(イタリア)より導入

※1 PhaseⅡa試験の結果を踏まえ、最大効果を確認するために実施していた追加のPhaseⅠ試験は終了しました。

※2 前回からの変更点

申請中の段階にありましたTAK-385(レルゴリクス)につきましては、子宮内膜症に対する効能効果の製造販売承認事項一部変更承認を取得いたしました。

また、PhaseⅠ/Ⅱの段階にありましたLF111(ドロスピレノン)につきましては、現在PhaseⅢ実施中であります。

(3) [連結] 設備投資、減価償却費、研究開発費

1. 設備投資

	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期
通 期	766 百万円	657 百万円	(予) 1,018 百万円

2. 減価償却費

	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期
通 期	3,305 百万円	2,885 百万円	(予) 3,190 百万円

3. 研究開発費

	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期
通 期	4,709 百万円	3,598 百万円	(予) 4,188 百万円

※1 2021年3月期はあすか製薬株式会社として公表した数値であります。